

## コンソールサーバ SmartCS「NS-2240」と SPARC Enterprise/PRIMEQUEST の接続検証結果

エスアイアイ・ネットワーク・システムズ株式会社

### 1. はじめに

コンソールサーバ SmartCS「NS-2240」と SPARC Enterprise/PRIMEQUEST との接続検証を実施しましたので以下に報告致します。Solaris10 をインストールした SPARC Enterprise と Redhat Enterprise Linux ES v.5 をインストールした PRIMEQUEST を、コンソールサーバ SmartCS「NS-2240」(以降、SmartCS と略記します)を経由して管理できることを本接続検証で確認しました。接続検証の詳細は下記を参照してください。

### 2. 検証日時と検証場所

検証日時: 2007年12月18日(火) 10:00 ~ 19:00  
 検証場所: 富士通株式会社 プラットフォームソリューションセンター

### 3. 検証機器

#### ● コンソールサーバ

##### ➤ SmartCS「NS-2240-32」 System Software Version 1.0.2

※NS-2240 シリーズは搭載しているシリアルポート数(16/24/32)により型番が異なります。  
 3機種(NS-2240-16/NS-2240-24/NS-2240-32)の違いはシリアルポート数のみですので、本接続検証結果は3機種全てに該当します。



(前面)



(背面)

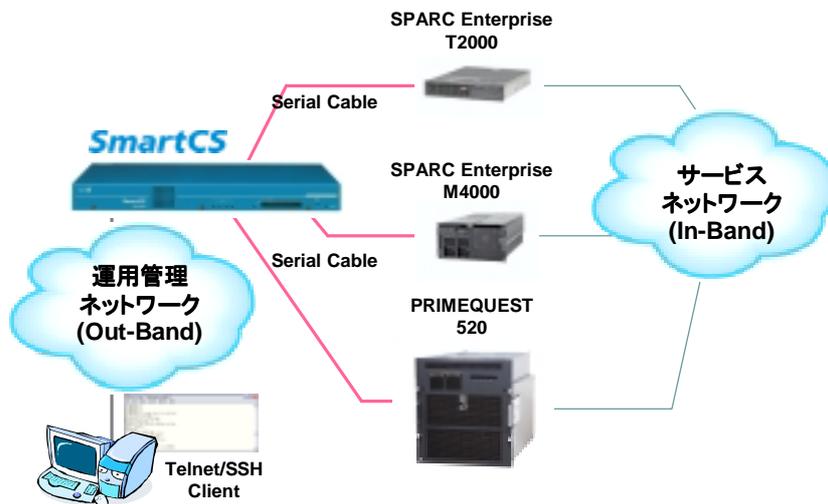
#### ● 接続検証を実施したサーバ機

##### ➤ SPARC Enterprise T2000

サーバ機種	OS	
SPARC Enterprise T2000	Solaris 10	SunOS t2000 5.10 Generic_125100-10 sun4v sparc SUNW,SPARC-Enterprise-T2000
SPARC Enterprise M4000	Solaris 10	SunOS m4000r2 5.10 Generic_125100-10 sun4u sparc SUNW,SPARC-Enterprise
PRIMEQUEST 520	Redhat Enterprise Linux ES v.5(2.6.18-8.EL5)	

#### 4. 接続検証の構成図

SmartCSと SPARC Enterprise/PRIMEQUEST の接続検証は下記の構成にて実施しております。



1

#### 5. SmartCSと SPARC Enterprise/PRIMEQUEST を結ぶシリアルケーブル

SmartCSと SPARC Enterprise ならびに PRIMEQUEST は、下表のケーブルやコネクタを利用して接続検証を行いました。

機種	シリアルケーブルとコネクタ	SmartCS シリアルポートの設定
SPARC Enterprise T2000	Cat5e ストレートケーブル	9600bps 8bit/None Parity/Stopbit1
SPARC Enterprise M4000	Cat5e ストレートケーブル	9600bps 8bit/None Parity/Stopbit1
PRIMEQUEST 520	Cat5e ストレートケーブル + NS-490(DB9 変換コネクタ)	19200bps 8bit/None Parity/Stopbit1

## 6. 接続検証結果

UTF-8 Teraterm を搭載した PC から SmartCS を経由して、SPARC Enterprise/PRIMEQUEST のコンソール操作ができることを確認しました。接続検証結果を下表に記載します。

### ● SPARC Enterprise T2000

検証項目	結果
Telnet クライアントから SmartCS を経由した ALOM 操作	○
Telnet クライアントから SmartCS を経由した OpenBoot 操作	○
Telnet クライアントから SmartCS を経由した Solaris 操作	○
Break 信号の正常送信検証 (SmartCS で Break 信号送出を許可し、Break 信号の送信後、正しく Solaris の ok プロンプトが表示されることを確認する)	○
Break 信号の誤送信検証(シリアルケーブルの抜き差し 10 回) ※1	○
Break 信号の誤送信検証(電源 ON/OFF 10 回) ※1	○
Break 信号の誤送信検証(シャットダウン) ※1	○
SSHv2 クライアントからの操作	○

※1 SPARC Enterprise T2000 のプロンプトにて、Break 信号が PRIMEPOWER に誤送信されないことを確認しました。

### ● SPARC Enterprise M4000

検証項目	結果
Telnet クライアントから SmartCS を経由した XSCF 操作	○
Telnet クライアントから SmartCS を経由した OpenBoot 操作	○
Telnet クライアントから SmartCS を経由した Solaris 操作	○
Break 信号の送信検証 (Telnet クライアントから Break 信号を送信しても正常動作すること) ※1	○
SSHv2 クライアントからの操作	○

※1 SPARC Enterprise M4000 は Break 信号を受信しても ok プロンプトは表示されません。

### ● PRIMEQUEST 520

検証項目	結果
Telnet クライアントから SmartCS を経由した MMB 操作	○
Telnet クライアントから SmartCS を経由した I/O ユニットの Linux 操作	○
Telnet クライアントから SmartCS を経由した Solaris 操作	○
SSHv2 クライアントからの操作	○

SmartCS を利用するには PRIMEQUEST で設定を行う必要があります。  
設定の詳細は、「8. PRIMEQUEST の設定」を参照してください。

## 7. SPARC Enterprise の設定

SPARC Enterprise のシリアルポート(RJ45)と SmartCS を接続すれば利用できます。  
特別な設定を行う必要はありません。

## 8. PRIMEQUEST の設定

- **MMB**

PRIMEQUEST のシリアルポート(DB9)と SmartCS を接続すれば利用できます。

特別な設定を行う必要はありませんが、シリアルポートのボーレートが 19200bps ですので、SmartCS 側のシリアルポートを 19200bps に変更する必要があります。

- **I/O ユニット**

システムが動作している I/O ユニットの Console Redirection Switch の設定について、下記に記載します。

- ① Web ブラウザから MMB に接続 ([http://PRIMEQUEST の IP アドレス:8081/login.cgi](http://PRIMEQUESTのIPアドレス:8081/login.cgi))
- ② 「Partition」メニューを選択
- ③ 「Console Redirection Switch」を選択
- ④ 「Connect to」を MMB から COM に変更
- ⑤ 「Apply」を押下

上記の設定を行い、PRIMEQUEST のシリアルポート(DB9)と SmartCS を接続すれば利用できます。PRIMEQUEST の I/O ユニットのシリアルポートはボーレートが 19200bps ですので、SmartCS 側のシリアルポートを 19200bps に変更する必要があります。

## 9. 問い合わせ先

エスアイアイ・ネットワーク・システムズ 株式会社

NS 営業部

TEL : 043-211-1318  
E-Mail : ns-support@sii.co.jp  
製品 URL : <http://www.sii.co.jp/ns>

以上